

その他の参考の論点について

時代潮流、富山県における状況変化について

以下のような例（現時点）をあげて整理したいと考えるが、いかがか。

時代潮流

- **欧米中心から多極化へパワーバランスがシフト、世界政治経済の不透明化**
世界人口は約 73 億人（2015）であり、アジアが 4 割。世界経済の名目 GDP に占めるアジア諸国の割合は 34%と 3 分の 1（2014）。世界経済の減速。英国の EU 離脱、米国政権交代など保護主義的な流れ。
- **地球規模で進む環境問題（地球温暖化など）への新たな対応**
温室効果ガスの排出が高レベルで続く場合、2100 年には平均気温が 2.6 度から 4.8 度の上昇見込み。日本でも 2030 年頃には約 1 度、2100 年頃には約 4 度上昇見込み。
- **人口減少社会への突入、地方創生、一億総活躍社会の推進**
日本の人口は 1 億 2709 万人となり（平成 27 年国勢調査）、人口減少が進む。
- **第 4 次産業革命による新たなイノベーションと経済社会構造の変革**
IoT、ビッグデータ、AI、ICT 等を活用した「第 4 次産業革命」により、生産性向上、イノベーションが発現。産業構造・社会構造の変革も促進。
- **東日本大震災、熊本地震を踏まえた強靱な国土づくり、インフラ老朽化への対応**
今後 20 年間で建設後 50 年を経る施設の割合は、平成 45 年に道路橋が約 67%（H25 は約 18%）、河川管理施設が約 64%（H25 は約 25%）と急激に増加する見込み。
- **訪日外国人の増加、2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催決定**
訪日外国人旅行者数は 2015 年は 1974 万人と 2012 年の 836 万人から大幅に増加。訪日外国人旅行消費額も 3 兆 4771 億円へと 2012 年の 1 兆 846 億円から大幅に増加。

富山県における状況変化（現行計画策定後（24.4））

- **北陸新幹線の開業（開業前 3 倍の乗車人員、観光客の増加、企業立地）**
観光客入込数 26.4%増、外国人入込数 36.6%増、県内新設法人 14.0%増（全国 3 位）など。
- **大阪までの早期延伸・開業に向けた働きかけ、新ゴールデンルートの形成**
北陸 3 県が要望していた「小浜京都ルート」が決定、金沢・敦賀間は 2022 年度末の開業に向けた整備促進。
- **県内産業の新たな動き**
新幹線開業によるビジネス展開の拡大、伝統工芸品産業の海外展開、地方拠点強化税制に基づく企業立地、医薬品生産金額が 6,163 億円（H26）と全国 2 位、少子高齢化などによる人手不足、後継者育成。
- **陸・海・空の交通基盤の整備・活用**
あいの風とやま鉄道の開業、東海北陸自動車道の交通量増大・付加車線設置決定、伏木富山港では全国平均以上に外貨コンテナ取扱数は推移、富山きときと空港の国際線利用者数は順調に推移。
- **地方創生戦略による人口減少対策の進展（自然減の歯止め、社会増への転換）**
本県人口は 1998 年をピークに減少する一方、合計特殊出生率は 1.51 まで上昇（2015）。移住者 462 名、Uターン就職率 58.1%と増加。富山県立大学医薬品工学科の新設（29.4）、看護学部の創設（31.4）
- **富山県の魅力の世界発信**
ユネスコの「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟（2014）、G7 富山環境大臣会合の開催、「富山物質循環フレームワーク」を採択、PMDA北陸支部及びアジア医薬品・医療機器トレーニングセンター研修所の設置